

もったいないの今昔

江戸時代の庶民の生活は、循環型社会でした。現在、小平市ではこんな取組が行われています。

陶磁器



〔江戸〕

欠けた茶碗など、修理屋がなんでもなおしました。

〔現代〕

陶磁器のリサイクル
 ・環境フェスティバル
 ・ごみゼロフリーマーケット等で不要な茶碗、皿の回収（割れたもの可）
 ・優良なものは安価で販売（リユース）。そのほかのものは食器の原料としてリサイクル。

生ごみ



〔江戸〕

生ごみは畑の肥料になっていました。街（都市部）の生ごみも農村地帯へ。

〔現代〕

生ごみ
 ・コンポスター、ダンボールコンポスト、EMバケツ、電動処理機で堆肥にする。
 ・3世帯以上のグループを作り、バケツを借りて、週1回収するという取組に参加する。回収されたものは堆肥になり販売・配布されている。
 ・廃食油を回収し、BDF（バイオ・ディーゼル・フュエル）にしてディーゼルエンジンの燃料として使用。

ふんどし



〔江戸〕

夏の作業着としてのふんどしは、作業場の近くでレンタル屋が貸し出していました。

〔現代〕

・いろいろなレンタルショップ
 レンタカー、乳児用品のレンタル、冠婚葬祭、その他レンタル

家財等



〔江戸〕

灰、紙、ろうのくず、鍋など集める買取屋がいました。何でも集めて再利用するシステムがありました。

〔現代〕

粗大ごみとして回収された使わなくなった／一部壊れた家具等を、「リプレこだいら」で修理して安価で販売。

古着



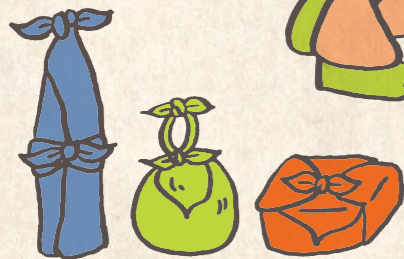
〔江戸〕

衣類は、大人用から子ども用、そして雑巾へ、何度も仕立て直しました。

〔現代〕

・社会福祉協議会のバザー
 ・小平市のごみゼロフリーマーケット
 ・小平市の環境フェスティバル
 ・フリーマーケット
 ・リサイクルショップ

風呂敷



【歴史】

風呂敷は数百年もの昔から物を包む布として使われてきました。室町時代の足利義満に端を発します。大湯殿を設けた義満が、入浴の際、脱いだ衣類をまちがえないように家紋入りのふくさに包み、湯上がりにはこのふくさの上で衣類を着たといいました。風呂敷＝これが名前の由来です。

ただの正方形の布が、大きくなったり、小さくなったりして、いろんな形や物に変身！

- ◎どんなモノでも包めます（ボール、ビン、布団、お弁当など）
- ◎どんなモノにも変身できるんです（手袋、帽子、おしゃれなバッグ、ストール、三角巾など）カバンに一枚入れておけば、あなたも魔法使いになれるんです！

段ボールコンポスト体験記



燃えるごみの約40%以上が生ごみだそうです。それが腐葉土と米ぬかだけで消えてしまい、おまけにできた土で畑が肥えるという一石二鳥の話の聞きました。生ごみが無くなれば燃えるごみは、かさも重さも半分になると気づき、ダンボールコンポストの講習会に出てみました。

コンポストの作り方はとても簡単でした。ダンボールを組み立ててふたを中へ折ってガムテープで固定し、四隅と底もテープで補強。底に新聞紙を敷いて雨に濡れない場所でレンガなどの台に乗せる。そこに腐葉土20㍓と米ぬか7㍓を入れてよく混ぜる。布でふたをする。腐葉土に穴を掘り、生ごみを入れて米

ぬかを一握りまぶし、腐葉土をかぶせる。毎日かき混ぜ、また生ごみを入れる。40℃以上に土の温度が上がると発酵が進み、生ごみは分解して消える。

やってみて驚き、ごみ削減にちょっぴり貢献した気分になりました。秋に始めて半年間順調に生ごみは消えましたが、米ぬか入手先に困り、小バエが少し発生したので中止。その後米ぬかは自動精米機のところで無料でもらえることを知り再開しました。米ぬかを多めに入れると土の温度が上がり虫の発生を防げます。臭いに悩まされながらごみ収集日まで待つこともなく、今また生ごみが消える快感を味わっています。